

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	最先端研究開発戦略的強化費補助金	担当部局庁	研究振興局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度～平成25年度	担当課室	振興企画課学術企画室	学術企画室長 中野理美			
会計区分	一般会計	政策・施策名	基礎研究の充実及び研究の推進のための環境整備 IX-1 学術研究の振興				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-	関係する計画、 通知等	新成長戦略(平成22年6月18日閣議決定) 最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針 (平成22年4月27日総合科学技術会議決定) 第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界をリードし、世界のトップを目指す研究開発を通じて、我が国の中長期的な国際競争力の強化等を目指す「最先端研究開発支援プログラム」を加速・強化する。また、グリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションを中心に、基礎研究から出口を見据えた研究開発を行う最先端の研究設備の整備・運用に必要な支援を行うとともに、海外への若手研究者派遣の支援を行い、「頭脳循環」の実現による研究開発力の強化を図る。						
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	「最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針」(平成22年4月27日総合科学技術会議決定)に基づき、①最先端研究開発支援プログラムで決定された30課題の研究開発を一層加速・強化するために支援を行う「最先端研究開発支援プログラム加速・強化事業」、②最先端研究開発支援プログラム全体及び中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開する活動に対して支援を行う「最先端研究開発支援プログラム公開活動」、③研究ポテンシャルが高い研究拠点において、最先端の研究成果の創出が期待できる設備を整備するとともに、運用に必要な支援を行う「最先端研究基盤事業」、④優れた国際共同研究に携わる若手研究者の海外派遣を支援する「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」を実施する。なお、本補助金は機関に対する定額補助になっている。 ※①及び④の事業については、平成23年度で終了している。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	40,000	17,500	10,050	200	-
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	△ 22,933	14,408	2,765	5,760	-
		計	17,067	31,908	12,815	5,960	-
		執行額	17,063	31,873	12,793	-	-
	執行率(%)	100.0%	99.9%	99.8%	-	-	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	最先端研究設備の利用状況等 (本事業においては、設備等整備後に、事業実施期間全体で成果を判断すべきであるため、現時点で達成度を定量的に示すのは困難。参考として、平成23年度に設備等の整備が終わり、利用を開始した2事業における最先端研究設備の利用件数を示す。)	成果実績	件数	-	-	209	-
		達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	最先端研究設備の整備状況等 (本事業の終了予定の平成25年度末に向け、国内外の若手研究者に広く利用される研究基盤の整備等を進めている。参考として、本事業(4プログラム)により実施される課題数を示す。)	活動実績 (当初見込み)	課題	125	57 ( 28 )	27 ( 26 )	- ( 13 )
単位当たり コスト	473 (百万円/課題)	算出根拠	単位当たりコスト =実施課題に対する平成24年度配分額(12,783百万円)/実施課題数(27課題)				
平成25・26年度 予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	最先端研究開発戦略的強化費補助金	200百万円	-				
	計	200百万円	-				

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	最先端研究基盤事業において、事業選定時に広く意見募集を行うなど、社会ニーズの把握に努めている。また、国内外の若手研究者等を惹きつけ、国際的な頭脳循環を促進するための最先端研究設備の整備は重要である。最先端研究開発支援プログラム公開活動では、研究者だけでなく一般国民を対象としたシンポジウムにより、研究者と国民との対話を通じた最先端の研究開発に対する国民のニーズの共有化を図るものであり、両事業とも国が積極的に推進していく必要がある。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	最先端研究開発支援プログラム公開活動の平成24年度の募集に当たっては、公募を行うことで競争性を確保しており、また、事業選定に当たっては、必要経費の積算の適切性を審査の観点の一つとし事業の遂行に真に必要な額を交付している。経費の執行に関しては、事業年度毎に実績報告書等において、支出先・使途の把握、補助金の使用状況や事業目的との整合性についての確認に努めている。また、現地調査を行うなど必要な指導を行っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	最先端研究基盤事業は、国内外の研究者を惹きつける研究基盤を加速・強化するべく、広く意見募集を行い、研究ポテンシャルの高い研究拠点の中から補助対象事業を選定しており、実効性の高い事業となっている。平成22年度に14課題が採択され、事業完了を目指し、最先端研究設備の整備が進められている(平成24年度末時点で6課題が完了)。事業が終了し、設備の整備が完了した課題については、順次研究者の利用に供されており、今後、各課題の研究テーマの特長を踏まえつつ、課題選定時の観点に基づき評価を実施する予定としている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<p>・平成24年度の最先端研究開発支援プログラム公開活動では、シンポジウムの開催により中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開するという所期の目的の達成に加え、研究者と高校生など一般国民との対話を通じ、次代の科学技術を担う人材の裾野の拡大と国民の科学技術に関する知識や能力の向上に貢献している。</p> <p>・最先端研究基盤事業については、東日本大震災の影響等が懸念されたが、繰越制度の活用等により事業目的の達成に向けて整備が進められている。なお、本事業の予算措置は平成22年度から24年度までの3年間で終了した。</p>					
外部有識者の所見						
<p>本事業においては、最先端研究基盤事業については、着実に最先端研究設備の整備が進められている。また、最先端研究開発支援プログラム公開活動については、最先端研究開発支援プログラム(FIRST)による研究内容やその成果、今後の展望などについて広く情報発信を行っていること認められる。本事業は平成25年度で終了予定であり、今後は本事業のあり方について検討すべきである。</p>						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業全改善の抜本的	<p>当該事業は、所期の目標を達成したことから、当初の予定通り平成25年度をもって廃止することが適当である。ただし、今後は事業終了後の評価結果を踏まえ、本事業のあり方を検討すべきである。</p>					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
廃止	<p>当該事業は、所期の目標を達成したことから、平成25年度をもって廃止する。なお、最先端研究基盤事業において設備の整備が完了した課題について、課題選定時の観点に基づき評価を実施する。</p>					
備考						
<p>【関連URL】</p> <p>○内閣府ホームページ「最先端研究開発戦略的強化事業について」  <a href="http://www8.cao.go.jp/cstp/sentan/kyouka_about.html">http://www8.cao.go.jp/cstp/sentan/kyouka_about.html</a></p> <p>○独立行政法人日本学術振興会ホームページ「最先端研究基盤事業」  <a href="http://www.jsps.go.jp/j-sentankiban/">http://www.jsps.go.jp/j-sentankiban/</a></p> <p>○文部科学省ホームページ「最先端研究基盤事業補助対象事業の決定について」  <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/06/1295019.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/06/1295019.htm</a></p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	—	平成23年	0224	平成24年	0245

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省  
12,793百万円

〔補助〕

A: 最先端研究開発戦略的  
強化費補助金  
12,793百万円  
(独)日本学術振興会

〔総合科学技術会議(CSTP)の定めた運用基本方針のもと、最先端研究開発支援プログラムの加速・強化及び若手・女性研究者が活躍する研究基盤等の強化に対して支援〕

〔補助金の交付・公募・審査に係る業務を実施〕

〔公募(CSTP)・間接補助〕

B: 最先端研究開発支援  
プログラム公開活動  
186百万円  
大学・独立行政法人等  
(全10機関)

〔選定(文部科学省)・間接補助〕

C: 最先端研究基盤事業  
12,597百万円  
大学・独立行政法人等  
(全12機関)

〔最先端研究開発支援プログラム全体及び中心研究者・研究課題の研究内容を広く公開する活動を実施〕

〔大型低温重力波望遠鏡などの最先端の研究成果の創出が期待できる設備を整備〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A.独立行政法人日本学術振興会			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	大学、独立行政法人等へ交付	12,783			
旅費	実地調査旅費等	5			
その他	派遣職員雇用経費、通信運搬費等	4			
消耗品費	交付業務等に必要な消耗品の購入	1			
計		12,793	計		0
B.独立行政法人科学技術振興機構			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業実施費	シンポジウム運営費用、通信運搬費等	42			
旅費	国内旅費・外国旅費	6			
謝金・人件費	講演謝金等	3			
会場借料	シンポジウム会場借料	3			
計		54	計		0
C.東京大学			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
設備整備費	研究設備の購入等	4,053			
物品費	物品の購入等	257			
謝金等	研究への協力謝金等	81			
その他	光熱水料等	42			
旅費	国内旅費・外国旅費	12			
計		4,445	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)日本学術振興会	大学、独立行政法人等への補助金交付	12,793	—	—

※補助事業

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)科学技術振興機構	FIRSTサイエンスフォーラム2012-2013	54	—	—
2	東京大学	第4回超小型衛星シンポジウム など4課題	50	—	—
3	株式会社コンベンションリンケージ	第3回分子追跡放射線治療国際会議	15	—	—
4	(独)理化学研究所	強相関量子科学理論フォーラム国際シンポジウム	14	—	—
5	東北大学	第3回国際集積化マイクロシステムシンポジウム など2課題	13	—	—
6	筑波大学	サイバニクス国際フォーラム2013	11	—	—
7	大阪大学	2012年度国際シンポジウム「免疫ダイナミズムの統合的理解にむけて」	11	—	—
8	京都大学	再生医療応用を目指したiPS細胞の標準化	7	—	—
9	技術研究組合光電子融合基盤技術研究所	第2回フォトンクスとエレクトロニクスの融合国際シンポジウム	7	—	—
10	学校法人慶應義塾	脳/心の進化と疾患	4	—	—

※補助事業

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京大学	次世代パルス最強磁場発生装置の整備 など4課題	4,445	—	—
2	(独)日本原子力研究開発機構	世界最先端研究用原子炉の高度利用による国際的研究開発拠点の整備 —原子力研究開発テクノパークの創成— など2課題	2,365	—	—
3	高エネルギー加速器研究機構	素粒子分野における世界最先端研究基盤の整備 —KEKBの高度化による国際研究拠点の構築—	1,870	—	—
4	(独)海洋研究開発機構	海底下実環境ラボの整備による地球科学—生命科学融合拠点の強化(「ちきゅう」を活用)	1,186	—	—
5	(独)理化学研究所	コヒーレント光科学研究基盤の整備 など2課題	1,068	—	—
6	京都大学	心の先端研究のための連携拠点(WISH)構築	522	—	—
7	大阪大学	生命動態システム科学研究の推進 など3課題	309	—	—
8	熊本大学	ゲノム機能医学研究環境整備事業	200	—	—
9	東北大学	化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備	197	—	—
10	九州大学	化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備	155	—	—

※補助事業